

競争を生き抜く代理店

(株)日本シンクタンク 代表 取締役 那須顯一

TEL06-6282-6488(代)
http://www.j-thinktank.com/

行政のハザードマップをじっくり確認

最後に頼れるのは「自分自身」

先月この記事を書いて、5000字にもおよぶ大河川で甚大な被害となりました。被害を受けられた皆さんに心からお見舞い申し上げますと共に、1日も早い復旧を心から祈念申し上げます。

あの週末は、我々の仲間

の四国大会が岡山で開催され、また私の親戚のいる愛媛県予市野村町の町一帯が水没している映像が流れ、心休まらない日々でした。(大会は無事開催。その後親戚の無事も確認)。

また河川の氾濫の多くが、ダムの放水によるものと報道された、野村町に悩まされていました。

の『野村ダム』には以前、訪れたことがあります、どうかいい所だったことを思い出しました。

野村ダムができる背景、目的は【肱川は昔から大河が氾濫して災害を繰り返してきましたが、なかでも昭和18年と20年には、大洲地図での最大流量毎秒

洪水に見舞われ、川沿いの住民は壊滅的な被害を受けました。そこで建設省(現・国土交通省)では昭和19年から洪水を防ぐために堤防や護岸をつくり

川ダムが完成し、これにより洪水の被害は以前に比べると減ったものの、まだ十分とはいません

でした。

一方、宇和島市、八幡浜市などの南予地区海岸部は、山が海にせまっており、平野の少ない地形で、大きな河川もないため、毎年のように水不足に悩まされています。

90日間雨らしい雨はな

く、農作物の被害総額は250億円(このばかりまし

た)。

そこで、肱川上流に洪

水調節と利水補給を目的とする野村ダムを建設したもので、この総事業費は286億円で、昭和48

いた時点から発生した、洪水に見舞われ、川沿いの住民は壊滅的な被害を受けました。そこで建設省(現・国土交通省)では昭和19年から洪水を防ぐために堤防や護岸をつくり

もともと、河川の氾濫が起きた地域だったよ

りは、最後に頼るのは

自分自身ではないでしょ

うか。

そしてこれまでに経験

のない猛暑は、特に高齢者や乳幼児の体力を奪い

ますし、特にアスファルトの照り返しのある場所

は、地面に近い方が気温

が高いので、小さなお子さんやベビーカーでの外

出は避けた方が無難です。また、ここ数年太陽

の磁場が四極化して、そ

の影響で地球も四極化し

ているのではないか。と

言う方もいらっしゃいま

すし、太陽風、太陽の磁

気エネルギーの影響が、

地球の噴火や地震に影響

があると言われています

ので、特に酷暑の今夏は要注意なのかもしれません

。これを教訓に我々も、

自宅の近辺にダム

があるのか。ある場合、

距離や河川の状況から、

放水の影響がどの程度予

想されるのか。行政のハ

ザードマップも、夏休みにじっくり確認しておぐべきなのでしょう。

何かあってから行政

にじっくり確認しておぐべきなのでしょう。

野村ダム管理所HPによ

り、野村ダム管理所HPによ

り、野村ダム管理所HPによ